

＝市民の声募集中＝

今回も4名の方に市民の声をお願いしました。現在市民の声を募集しています。お問い合わせは広報委員会までお願いします。

議会広報特別委員会 ☎42-6310

市政に思う

市民の声

今、大人たちが若い人に残してあげられること



江田島町 濱野 洋光

江田島市民として、島に住む若い人達を思うと、今こそ大人達が知恵を出し合い島の将来像を描くことが大切だと感じます。例えば、まちの特性であり産業である農業・漁業を活かし、大柿高校に専門分野の科を設定して、現役の就農者も高齢化してはどうか。実践でどこでも通用するプロが多くいます。インターネットで情報を全国に発信して若者を募集し、就農してもらおうの

も良いと思います。また、宮島、呉という観光地をつなぐ江田島の地理的条件を利用して、宮島から能美への直行便を開通し、宮島(厳島神社)・江田島(旧海軍兵学校)・呉(大和ミュージアム)というルートを作り、市内の宿泊業者と各企業が連携し、島の農業・漁業の体験を活かした体験型・見学ルートは、いかがでしょうか。道すがら、大型バス等が停まれる物産店もあれば、より就農意欲もわくでしょう。

江田島の特産品として推奨されているオリーブを、地元のカキや柑橘を使ったイタリア料理に使用し、江田島といえばイタリア料理というのはどうでしょうか。軌道にのれば地産地消の効果も期待できます。私は、陸上競技をやってきた中で、広島市内で行われる中国女子駅伝に海上自衛隊員の支援を受け江田島市陸協として参加しています。成績もさることながら、そこに至る過程(努力)している

江田島市遊園地について



能美中学校 大下 晴輝

僕は、江田島市に、遊園地を作りたいと提案します。理由は3つあります。一つ目は、この江田島にある自然を生かした、テーマパークをつくりたいと思ったからです。江田島市はとても自然が豊かです。その自然を生かしたものを作りたいと思います。そうすれば多くの人が自然にふれることができ、自然に興味をもつことができます。二つ目は、親子で参加

できるものを作ってみようと思ったからです。この江田島市には、親子で一緒に楽しめるような場所がありません。親子で楽しめる遊園地などをつくれば、家族の絆がもっと強くなると思います。例えば、この園内でクイズを出題し、答えだと思ふものを探していき、途中いろいろなアトラクションをいれるなどして、家族全体で楽しめるような場にしたしたいと思います。

三つ目は、人口を増やしていきたいと思つたからです。江田島市の人口は年々減ってきています。そこで、人口が増えるようなきっかけをつくっていきたく思います。例えば、遊園地で、この島の特産品のかきなどの料理をふるまうなどして、多くの人にこの島のよさをわかってもらいたいです。一方で、遊園地を建設したときに自然を破壊してしまうのではないかと

いう意見があるかもしれませんが。たしかに、少しは自然を破壊してしまうかもしれないが、できるだけ自然を生かして、作ってあげたいと思います。それに、入館した人に協力してもらい、木を植えるといいと思います。これらの理由で、遊園地を作りたいと提案します。

自慢の江田島に



三高中学校 川尻 真希

江田島市が自慢できることは、山や川、海などの自然に恵まれていることだと思つています。そこで私は「環境を守る運動をもっと積極的にしよう」ということを提案します。そう考えた理由は二つあります。一つ目は、最近よく水に浮かぶごみを見かけるからです。せつかくきれいな川や海なのに、それを自分たちの手で汚してしまつては意味がありません。なので、自ら環境を守ろうという運動をす

ることにより、ポイ捨てなどがなくなるのではないかと思つたからです。二つ目は、このような運動を積極的にすることにより、地域の方々の交流が増えると考えたからです。地域の方との交流が増えれば、この江田島市の歴史や、自分が知らなかったことなどを教えて頂いたりできると思つています。また、歳に関係なく、子どもから大人まで協力して掃除をすることにより、社会性が身に付くとともに、人と協

力して物事を行う大切さを学ぶことができると思つています。最後に私は、きれいに戻つた江田島を色々なところにアピールしていきたいと思つています。そして、この江田島に、もっと有名になってほしいと思つています。

ました。「今、ここ」を生きた喜びを表現できたのは、大きな体験でした。島を舞台に、思いがけないドラマの始まりに感謝しています。

今生まれる島の歌



大柿町 妙慶寺 長坂 知春

故郷の島へ帰って実家の寺を継ぎ、子育てしながら十六年が経ちます。学生時代過ごした大阪では、都会の消費生活に驚き、海や畑の幸が、身近な島の生産生活の豊かさを再認識させてくれました。とはいえずターンしてからは「喫茶店も少ないし、映画館はないし」と寂しく感じていました。そんな私に島を見直すきっかけをくれたのは、山口県の祝島です。人口約五百人、農業・漁業を

営む暮らしは、自立的で創意工夫に満ちていました。残飯を集めて豚の餌にするサイクル。干魚・枇杷茶等を通信販売する事業。自前の娯楽交流会。暮らしを守るために「新たな原子力発電所建設は行かない」と三十年間も島内デモを続けている島でもあります。瀬戸内文化の底力である方言と、お年寄りの元気に触れ、島にないものは自分達で作る、不便は自立のチャンスだと学

んだ私は、今ではお寺のお同行と本堂で映画会を開催したり、ホームコンサートを開いたりして交流を楽しんでいます。バラ色の夕焼け、どしゃぶり、満月。そんな島の情景に心動かされた時に生まれるメロディーを、ピアノやギターに乗せて口ずさむのが、今の私の何よりの喜びです。今年六月に開催された江田島ミュージックジャンボリーでは、友人と一緒に作詞作曲した歌を発表し